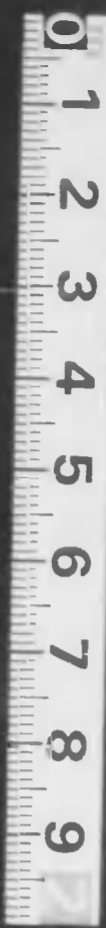


寫眞週報

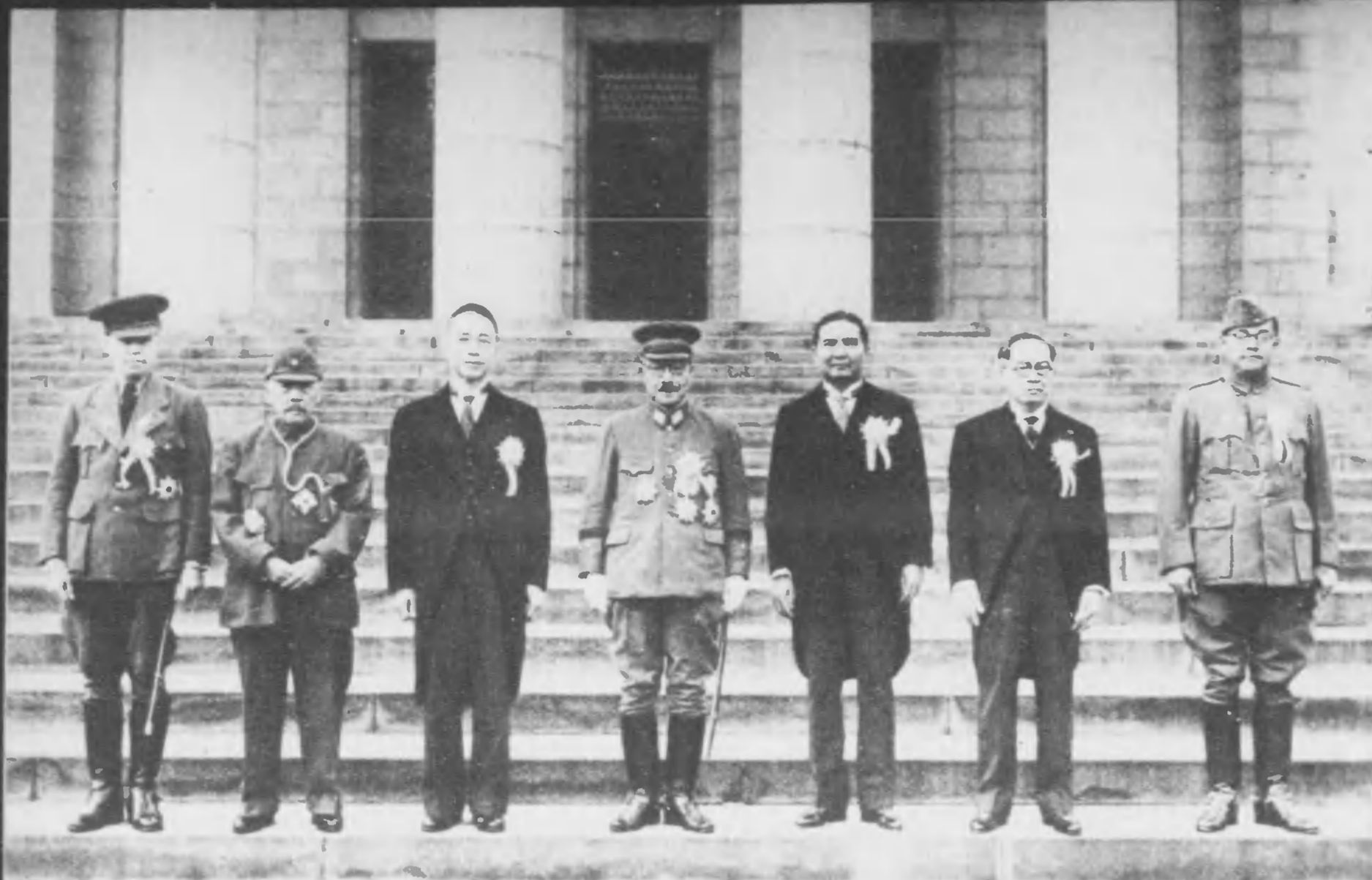
編輯局報情
十一月十七日 第九百八十七號

昭和十八年十一月十七日發行 第一號 第九百八十七號

大東亞の力



こゝに見たり
 大いなる國うみのあかし
 戦ひのさなか
 今ぞきく
 澎湃と昂まりおこる
 大いなるアジアの聲を
 さなりその聲
 アジア十億の雄叫びとなり
 轟然と米英の耳朶をうつ
 今にして彼等知るべし
 こぞりたつアジアの力を



アジア十億の 戦力結集 大東亞會議開く

大東亞共同宣言

抑、世界各國が各、其の所得、相倚り相扶けて萬邦共榮の樂を偕にするは世界平和確立の根本要諦なり。然るに米英は自國の繁榮の爲には他國家、他民族を抑壓し、特に大東亞に對しては飽くなき侵略擲取を行ひ、大東亞發展の野望を逞しうし、遂には大東亞の安定を根柢より覆さんとせり。大東亞戰爭の原因ここに存す。大東亞各國は相提携して大東亞戰爭を完遂し、大東亞を米英の桎梏より解放して、其の自存自衛を全うし、左の綱領に基き大東亞を建設し、以て世界平和の確立に寄與せんことを期す

- 一、大東亞各國は協同して大東亞の安定を確保し、道義に基き共存共榮の秩序を建設す
- 一、大東亞各國は相互に自主獨立を尊重し互助敦睦の實を擧げ、大東亞の親和を確立す
- 一、大東亞各國は相互に其の傳統を尊重し、各、民族の創造性を伸揚し、大東亞の文化を昂揚す
- 一、大東亞各國は五惠の下緊密に提携し、其の經濟發展を圖り、大東亞の繁榮を増進す
- 一、大東亞各國は萬邦との交誼を篤うし、人種的差別を撤廢し、普く文化を交流し、進んで資源を開放し以て世界の進運に貢獻す

大東亞會議に於てられた帝國議事堂に對する參加國旗(右からビルマ國旗、暹羅國旗、中華民國國旗、日章旗、タイ國旗、フィリピン國旗)



東亞、否、世界の歴史に不滅の一頁を飾る大東亞會議の懷たる成果については、今さら多言を要しない。東亞一體の體平たる姿は、今や眼前に顯現せられ、しかも十億民衆の共同意志を大東亞戰爭完遂、大東亞建設必成の一點に結集し、以て世界平和の確立に寄與せんとする大東亞總動員、堂々の進軍は既に開始されたのである

十一月六日、會議第二日に發表された大東亞共同宣言は、東亞の戰爭目的と平和建設の理念を、剩すところなく世界に闡明した。東亞の創は、たゞ大東亞を發展化せんとする米英の非望を撃つのみであり、大東亞の建設は世界進運への貢獻を念願とする東亞はこの偉大なる意志を、實踐によつて、米英に思ひ知らせるのみである

- 一、(中央) 日本國代表 内閣總理大臣 東條英機閣下(左) 中華民國代表 國民政府行政院院長 汪精衛閣下 滿洲國代表 國務總理大臣 張景惠閣下
- 一、(東條總理から右へ) ビルマ國代表 内閣總理大臣 ウー・パー・モウ閣下 (東條總理から右へ) タイ國代表 内閣總理大臣代理 ワン・ウィタヤコン閣下 フィリピン國代表 大統領 ホセ・ベ・ラウレル閣下 陪席者 自由印度政府首班 スパス・チャンドラ・ボース閣下



てつ切は事の議會亞東大分十五時九前日五月一十
長種が理總條東てつよに廣推の致一場滿 たれさ落
り入に事簡にも直し宜を會開的な史歴 席着に席
説演の表代國帝條東づま頭勢るよに順ハロイ國加参

集結力戦の億十アジア
く開議會亞東大

集結力戦の億十アジア



てに邸爵侯田前舍宿 下殿ンコヤタイワンワと理總條東



てに邸氏山藤舍宿 領統大ルレウラと理總條東



てに邸官臣大理總 班首スーボと理總條東

大東亞會議開



てに邸別氏崎岩舍宿 長院王と理總條東



てに邸氏部服舍宿 理總務國張と理總條東



てに邸氏井櫻舍宿 理總ウモ・ーバと理總條東

アジアは一つ仲よく力を合せて

張景惠閣下

明治五年奉天省安東縣に生る。奉天講武堂卒業。一和七年滿洲國と同時に參議府議長に就任。更に東省特別長官兼軍政部長に任ぜらる。帝政實施と共に軍政部大臣兼參議府議長となる。昭和十年國民政府總理任冠の後、大命を拜して國務總理大臣に就任。第一、陸軍陸軍上將で、各代表中の最年長者である。

注 精衛閣下

明治十七年廣東省番禺縣に生る。名は光敏、精衛は號である。十九歳の時、その英才を認められて廣東省政府から留學を命ぜられ、わが法政大學に學ぶ。舊國民政府時代は行政院議長兼外交部長、現在は國民政府主席兼行政院議長、軍事委員會委員長、中央黨部總裁、中央政治會議主席を兼ねてゐる。

右から張國務總理、青木大東亞大臣、汪行政院院長



ワンワイタヤコン閣下

明治二十四年生。佛國に學び、大正六年在佛公使館一等書記官。昭和四年外務次官、同八年外務省顧問、同九年總理大臣顧問に任ぜられ、現在南滿洲を兼ねてゐる。この間、各種國際會議に出席し、殊に昭和十六年東京平和會議には首席を兼ねて東朝、本年十月十五日、一等皇族に昇格す。本邦第一等旭日章を有してゐる。

ホセ・ベラウレル閣下

パシフィック・カレッジに生る。年輪五十二歳。大正四年フィリピン大學を卒業。同年海軍少佐に合格。精進士を卒業す。最高法院審判官、最高法院主任判事を歴任。昭和十七年ワイリピン行政府成立と共に司法長官に任ぜられ、後内務長官に轉ず。その後ワイリピン獨立準備委員會委員長、次いで獨立と共に大統領に就任す。

右からワンワイタヤコン閣下、來橋大使、ラウレル大統領



ウィーバー・モウ閣下

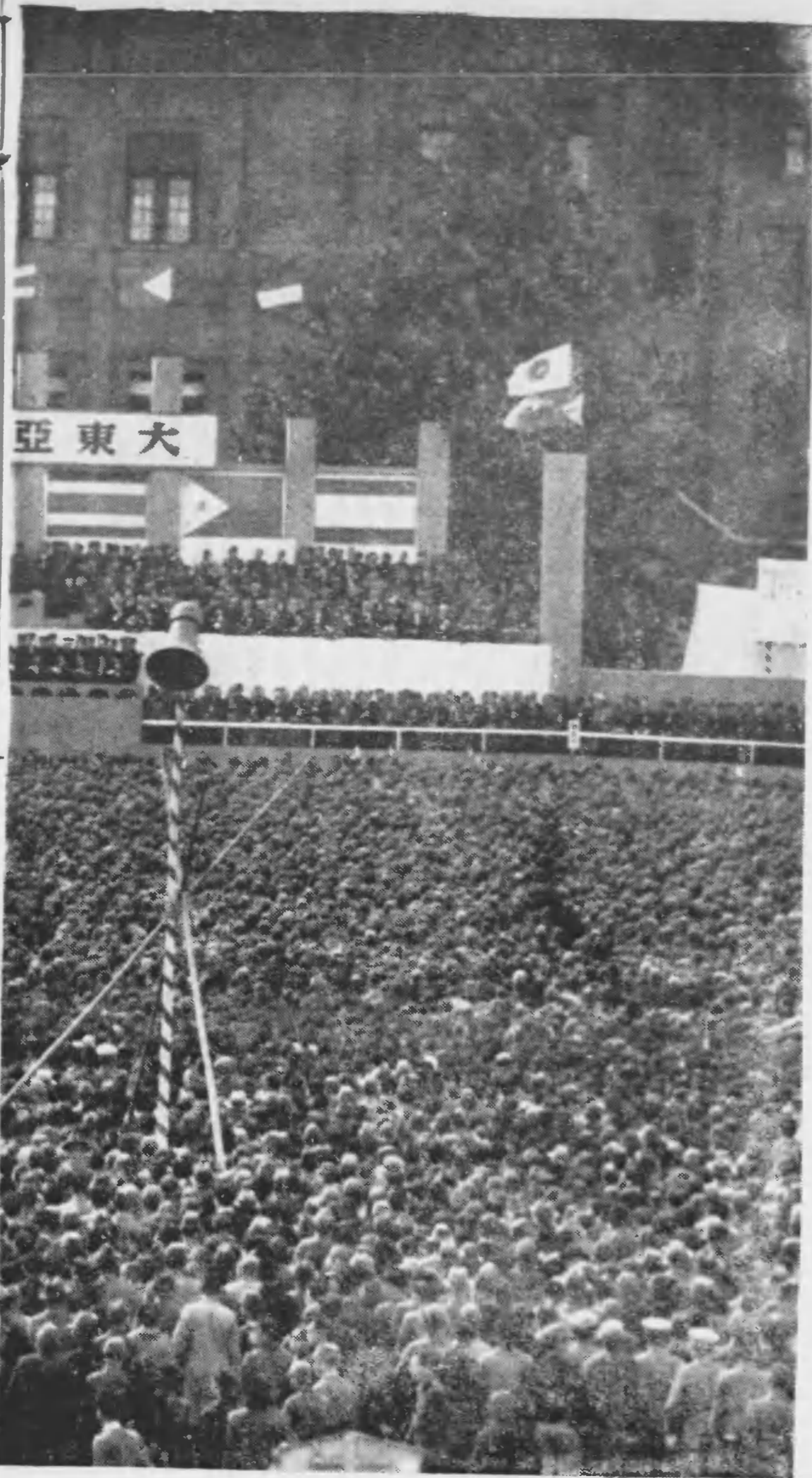
明治二十六年マウビンに生る。ケンブリッジ大學、ボルドウ大學に學び、大學より哲學博士の學位をうく。ビルマ離國後、精進士を卒業。昭和九年文部長官、同十二年印緬分府後最初の内閣を組織して總理大臣、同十四年ビルマ自由聯盟を結成す。ビルマ行政府成立と共に行政府長官、現在は國家代表並びに内閣總理大臣。

スパス・チャンドラ・ホース閣下

明治三十年カルクッタ近傍に生る。カルクッタ大塚及びケンブリッジ大學卒業。大正十年インド國民會議派に加入後、反英獨立の半生を貫く。その間、カルクッタ市會議長、同市長等にも選出され、殊に昭和十三年、同十四年には再度にわたつてインド國民會議派議長に就任。現在自由印度臨時政府首相、インド國民軍最高指揮官。

右から重光外務大臣、バー・モウ總理大臣、ホース首相





烈火を吐く 大東亞集結國民大會場

大東亞集結國民大會の幕を開いた十一月七日、一億國民が更に興奮の大東亞集結の決意を固める大東亞集結國民大會が、菊花壇の裏に比谷公園大球場に十萬國民の参加をみて、本會場の盛況裡に舉行された。皇軍への感謝決議、次いで東條總理が東亞の總動員態勢を中外に闡明、大東亞集結の決意を満腔の熱誠で述べ、各國代表それぞれ、烈々の挨拶を試み、かくして一億、否、十億の東亞集結の決意は火と成り、大會の非難はまことに米英の心算を度からしめた。

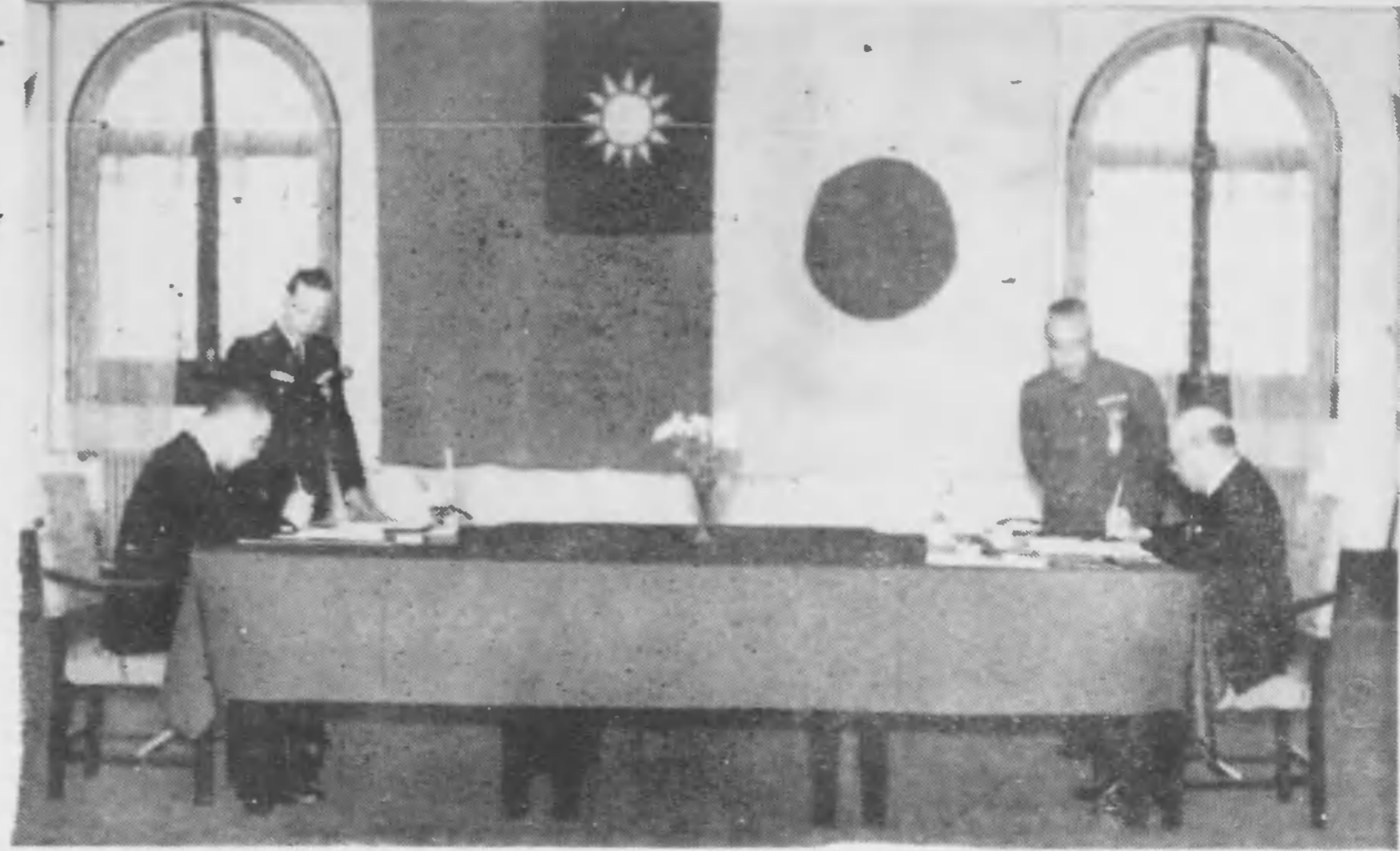




日華同盟條約調印式
 左 駐華大使 谷正川
 右 駐日大使 汪兆銘
 中央 汪兆銘
 右 谷正川
 左 汪兆銘
 中央 谷正川

「万邦をして各、その所得しむる」といふこの大理想は、日本の帝國とともにあつた。日清、日露、またこの理想の實現に向つてなされた戦ひにすぎない。しかし今度の大東亞戦争ほどこの理想が現實に偉大なる果を挙げたものはない。それがつひに實現されたところ、ビルマ、フィリピンの獨立があり、南方民族の政治參與があつたのである。殊に新生中國が、今日の輝かしき姿を得たのも、この大理想の大きな顯現であつた。

今やこの大精神にのつとる東亞解放は成つた。日本は更にこの偉業を誰手たらしむるため、今や激進な戦ひを断つてゐる。新中國の指導者として汪兆銘とあつた日本は、今日までの日本の歴史に堪へず、日本と同盟する、民生を回復してよくよくかんとてゐるのである。



日華同盟條約調印式
 左 駐華大使 谷正川
 右 駐日大使 汪兆銘
 中央 汪兆銘
 右 谷正川
 左 汪兆銘
 中央 谷正川

日華同盟條約調印の現實理想がわ

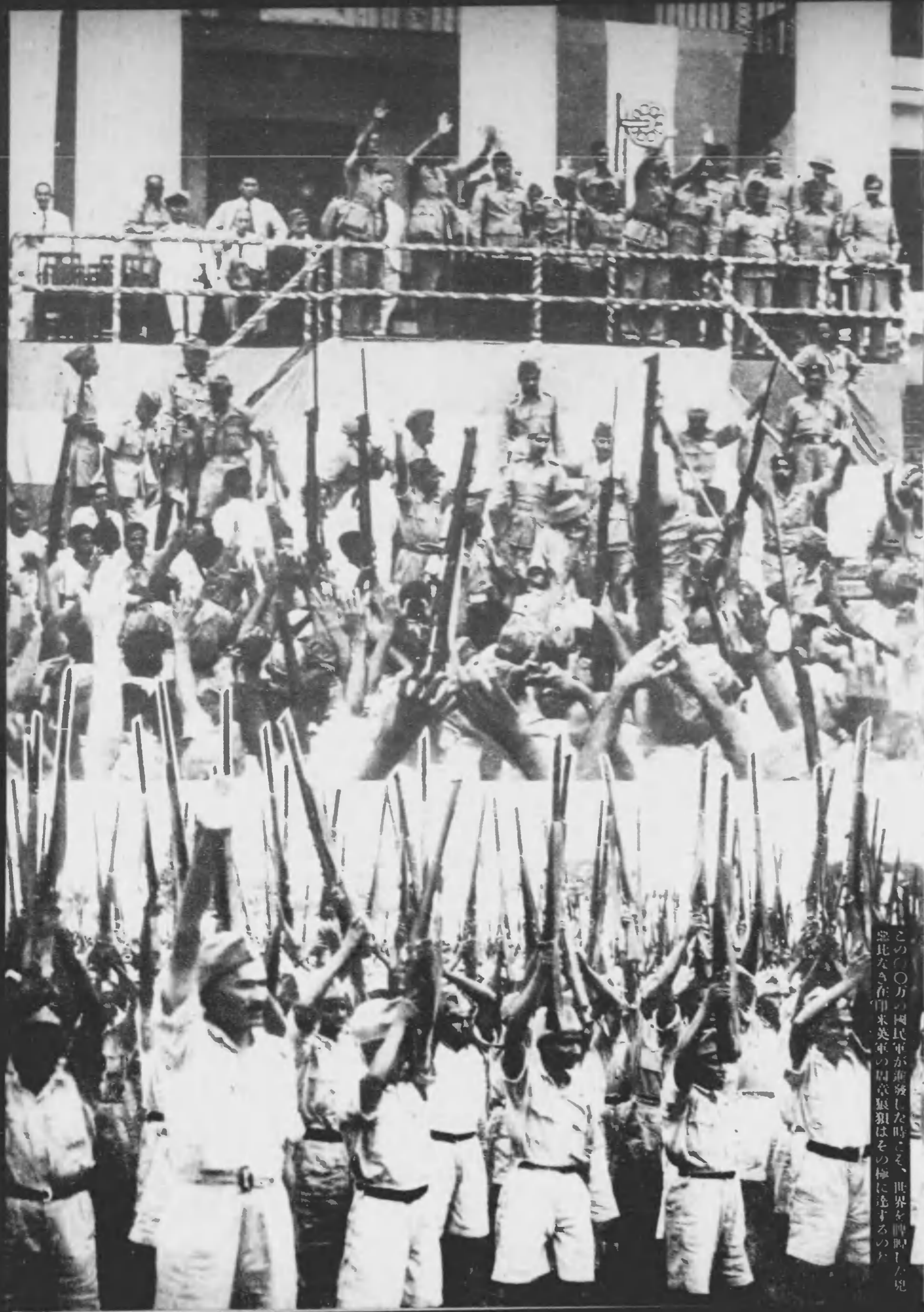
日華同盟條約の調印は、日華兩國に永久に善隣友好を維持するため、相互にその主權及び領土を尊重し、相互義務の手段を講ずること、日華兩國は大東亞の建設及び安定確保のため、相互に緊密に協力し、日華兩國は互恵の基礎として、兩國間の緊密なる經濟提携を行ふこと、日本は東亞の平和を回復し、戰爭状態を終了したるときは、中華民國領土内に派遣せられてゐる日本軍隊を撤去すること、等である。

この條約において先づわれ／＼が注目しなければならぬことは、それが今までの米英流の「條約」とは根本の考へ方において全く相違してゐるといふことである。即ち、その條約の中には強者が弱者を牽制する如き條文や、取引的とりきめがどこにもないといふことである。いはば從來のさうした條約を破る條約であることである。即ち、その條約本文中においては、兩國が永遠に睦み合つてゆくこと、お互の主權と領土とを尊重すること、お互に經濟の提携をなすこと等を定め、附屬文には、以前とりきめた駐兵の權利を放棄すること等を約束し、この戰爭が終つたときには、今日支那にある日本の兵隊を悉く引揚げるといふ事だつたことを決め合つたのである。

今までかくの如く相手國を尊重した條約が、嘗て世界のいづこに存在してゐたか、米英流の老へ方では、どうしても了解のつきぬ條約であらう。しかし、こゝにこそ日本の偉大なる帝國の理想に基づく進義政の眞面目があるのである。

「萬邦をして各、その所得しむる」といふこの大理想は、日本の帝國とともにあつた。日清、日露、またこの理想の實現に向つてなされた戦ひにすぎない。しかし今度の大東亞戦争ほどこの理想が現實に偉大なる果を挙げたものはない。それがつひに實現されたところ、ビルマ、フィリピンの獨立があり、南方民族の政治參與があつたのである。殊に新生中國が、今日の輝かしき姿を得たのも、この大理想の大きな顯現であつた。

今やこの大精神にのつとる東亞解放は成つた。日本は更にこの偉業を誰手たらしむるため、今や激進な戦ひを断つてゐる。新中國の指導者として汪兆銘とあつた日本は、今日までの日本の歴史に堪へず、日本と同盟する、民生を回復してよくよくかんとてゐるのである。



この○方の國民軍が進發した時こそ、世界を睥睨した見
 驚比なき在印米英軍の四圍狼狽はその極に達するのナ



東亞二百万のインド人 總員武力躍起へ

ボース最高指揮官インド國民軍を率へ

十月二十一日の自由印度假政府樹立について、スバス・チャンドラ・ボース國民軍最高指揮官は、インド國民軍ならびに婦人部隊の閱兵を行ひ、間近い德里進撃に備へる東亞二百万インド人の總員躍起を中外に宣した

今春六月、ボース最高指揮官が祖國奪回を叫んで起つや、英國はインド軍總司令官ウェーヴェルをインド總督に起用して、奥の手たる武力彈壓を強行しようとしてゐる。現に國民軍結成の報道がインド國內に傳はることをおそれ、インド兵のラジオ聴取を禁止し、また暴動を警戒して勤務中以外は武器の使用を禁止してゐる。この氣狂ひじみた彈壓にもかかわらず、インド兵の叛亂は相次ぎ、なかでもボース最高指揮官の門下であるベンガル人のコングレト黨は『自由インド國民軍前衛基地』と稱して、全インド人に呼びかけ躍起を促し、著々効果を收めつゝある。敵側でさへ、インド人中英獨立を希望する者八割二分、また日本に好意を示す者五割と、インド兵の動搖を告白してゐるほどだ

○(○)方の武器を持ち、すでに訓練されたインド國民軍が國境を突破して祖國に入つた時こそ、待ちまうけた同胞は起ち、英軍麾下のインド人部隊もまた旗幟を翻して合流すべきことは明らかである。『武器をとれ、しかして敵を撃て』を合言葉とする國民軍に、東亞の同胞としてわれらも心からの支援を送らう

「行くぞネーリー」待しし同胞ニボース最高指揮官ニ忠誠を誓ふ將兵は、殊にボースに「ナニヨリに火を燃ゆる」

「一人々々ラクスミバイ女王(インドのジャンマ・ダルク)とならうボース最高指揮官の閱兵を受けて婦人軍のラニオプ・ジャン・監獄の士氣はあがる



んさ子十富女二るす開敢てつ掛をリスヤ



んさ子美貴女三るす開敢てん組取と盤旋



んさ助之光男三ふ使をネガタ



くゆでんざきを目のリスヤ輝暁いか細か種金の君清男二



いじまさずは氣意のんさ助俊男長てつきりには巻鉢ふ向



てつ齋を院の棟老もんさ古長の揮掃頭輝



子寶一家の總力集め

庭家子多良優く輝に彰表



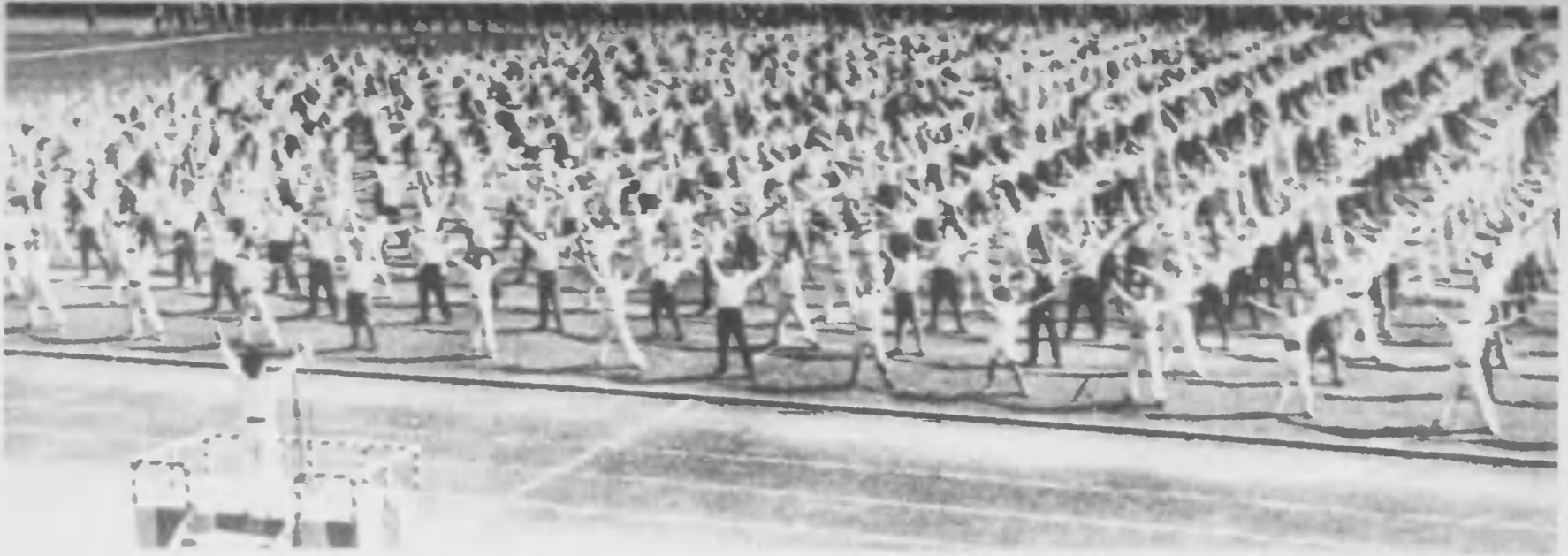
「浦子ちゃん」「十一よ」「正吾君」「十三です」「健造君」「十五歳です」「貴美子さん」「十八よ」「富士子さん」「二十三ですわ」「光之助さん」「二十一歳、十二月には入替いたします」「清さん」「二十八です」「俊雄さん」「三十一です」「美枝子さん」「二十六でございます」

「ホ、ウ随分お見事ですね」「いや、われながらよく育て、きたと思ひますよ」何の屈託もなさうに爆笑するお父さんの長吉さんに合従をうつつは、お母さんのこうさん。これが子寶部隊角田さん一家の點呼狀況です

一人でも多ければ多いだけ戦力となり、敵撃滅の力となる決戦下、人口戦の殊勳甲として今年も一千九十七の子寶家庭が榮えの表彰に輝き、皇國悠久の繁榮を約する國本培養の力の頼もしさを感じさせてゐますが、十二人の子寶部隊を擁しその總力を結集して、家庭軍需工場の意氣で航空機工具の増産に敢闘する東京都品川区大井町角田さん一家、お父さんを陣頭に、タガネを打ち、旋盤を操作し、ヤスリを使い、和氣満々と増産に精進する子寶たちの姿こそ、この戦ひを戦ひぬくために我が國すべての家庭に求めたい姿です。「生むのだ、殖やすのだ、子寶を」そこに我が國永遠の發達の基があるのです

朝六時になると、一家總出のラジオ體操だ

ズワリと勢揃ひした角田さん一家



全国こぞつて 演練の奉納

第十四回明治神宮國民
民練成大會全國大會
十一月三日

神宮外苑競技場におけるラジオ中継



福岡市大名國民學校児童の相模體操
撮影 西部日本新聞社



第十四回明治神宮國民練成大會全國大會は十一月三日の明治の佳節を中心に、全國一萬二千の市區町村あけて決戦下見事健民の華を咲かせて盛大に行はれた。老若男女が、防空訓練に、または職場運動に、それぞれ各種目に技を競ひ、武を練り、必勝の闘魂と居常練磨の姿をそのまゝ、明治神宮に奉納する敢闘ふりを、全國各地に拾つてみた



名古屋市神宮公園の旗屋群
民防空統技
撮影 中部日本新聞社



★表紙
遅く生誕した自由印度假政府首班スバス・チャンドラ・ボース氏である。今日までの全生涯をたゞ暴英打倒、インド解放の戦ひに、これ捧げて闘みなかつたボース氏四十七歳の横顔である。今や百年の機至り、帝國の絶大なる援助のもとに假政府を樹立し、國民軍を率ひて暴英打倒へ専ら身をこめ、三億八千万同胞を救はんといふ不撓身の胆量である。撮影 マライ派遣軍報道部

照準器



植木屋さんの夢
白路 徹

植木屋さんの夢
白路 徹
植木屋さんの夢
白路 徹
植木屋さんの夢
白路 徹

家庭科講座



家庭科講座
大野 謙三
家庭科講座
大野 謙三

サンマと毒カス



サンマと毒カス
西川 辰夫
サンマと毒カス
西川 辰夫

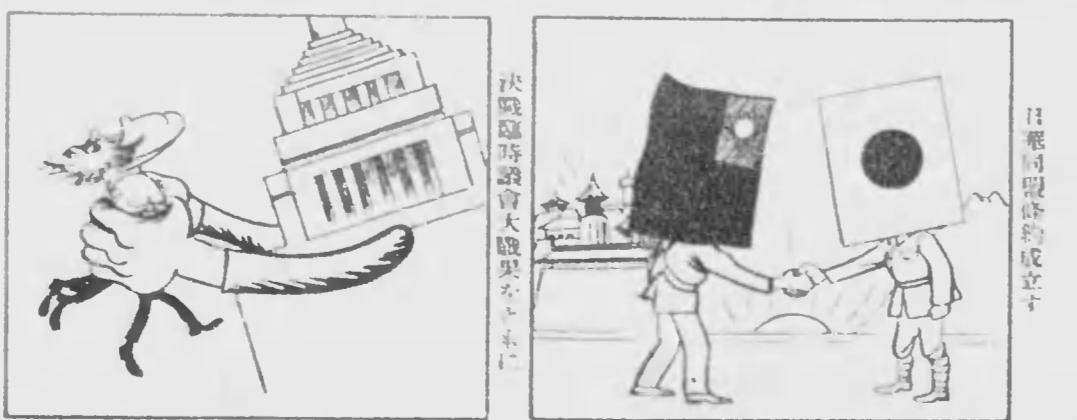
一粒の米も

一粒の米も
植木屋
一粒の米も
植木屋

大東亞戦争漫画日記



日華同盟締結成立す



真珠週報 昭和十六年十月十七日 第... 印刷局印刷發行

一億戰鬪配置に



貯蓄配備も抜かりなく

大阪貯蓄銀行



委進書内委



大阪市東区伏見町三丁目

印刷局印刷發行

本誌を回覧に
用下さい
前線慰問にも
本誌を回覧に
用下さい

本誌の発行は
大阪貯蓄銀行
の発行による
ものである

所 送 申	中 心	所 送 申	中 心
新聞	各地官報	新聞	各地官報
書信	各地官報	書信	各地官報
資料	各地官報	資料	各地官報
印刷	各地官報	印刷	各地官報